

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果報告

令和3年度5月27日に横浜市立小学校6年生(約2万8千人)、中学校3年生(約2万3千人)を対象に実施された全国学力・学習状況調査の各教科に関する結果と児童の意識に関する結果の概要をお知らせします。

### ◎各教科における観点別正答率

#### 【小学校国語の内容別平均正答率(%)】

		本校	横浜市	神奈川県	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62	67	64	68
		(2) 情報の扱い方に関する事項				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項				
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	74	80	79	78
		B 書くこと	57	62	58	61
		C 読むこと	38	50	49	47

#### 【分析結果及び課題に対する手立て】

##### 分析

知識及び技能の中で「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う問題では、全国平均正答率を6%下回っている。また、横浜市平均正答率を5%下回っている。

思考力、判断力、表現力等の中で「C 読むこと」が全国平均正答率を9ポイント下回っている。また、横浜市平均正答率を11%も下回っている。3観点の中でも一番低い水準となっている。

##### 手立て

漢字の学習指導に当たっては、日常の中で適切に繰り返し使っていく必要がある。本校では週末に作文を書いている。文章の構成はもちろんのこと、適切な漢字が文章中に使われているか確認し、文章を書くことを継続していくことで力を付けていく。

読むことの指導に当たっては、目的に応じた要約の力を付けるために、モデル文などを通して具体的に理解を図っていく必要がある。

【小学校算数の領域別平均正答率（％）】

		本校	横浜市	神奈川県	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	61	64	62	63
	B 図形	54	59	57	58
	C 測定	74	76	75	75
	C 変化と関係	79	79	77	76
	D データの活用	78	78	77	76

【分析結果及び課題に対する手立て】

分析

「C 変化と関係」「D データの活用」は全国平均正答率を2～3％上回っている。横浜市平均正答率とも同じである。しかし、「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」は全国平均正答率を1～4％下回っている。横浜市平均正答率でも2～5％下回っている。

手立て

「A 数と計算」では、文章の中で「分ける」「何倍」など計算のヒントとなる言葉がある。その言葉をもとに式を立て、正確に答えを求める必要がある。正確に計算するためには、基礎となるかけ算やわり算ができなければならない。日々の学習の中で様々な計算に繰り返し触れていく。

「B 図形」では、直角三角形や平行四辺形、台形など図形の求める公式を覚えて活用する必要がある。図形の単元を行うに当たって、これまで習った図形の求め方を復習することで既習の学習を生かした学習展開を構成していく。

「C 測定」では、距離や面積、時刻など比較するに当たって計算が必要である。資料を見たイメージで比較するのではなく、日々の学習の中から計算の根拠を聞き説明することで測定の答えを求める力を付けていく。

【児童生徒】

児童質問紙(全国基準)

